

第8期とっとりエコサポーターズ養成講座

今年も仲間が増えました!!

今年度は3会場で開催され、なんと高校生を含めて総勢のべ68人が参加し、活気のある会になりました。

とっとりエコサポーターズ養成講座

とっとりエコサポーターズ(鳥取県地球温暖化防止活動推進員)を養成する2日間の講座のうちの必修講座です。今回の講座を修了した人は、地域で行われる環境イベントなどで実地研修を行うことになっています。

西部



環境省中国四国地方環境事務所
環境対策課 課長
原田 幸也 氏

温暖化対策は実施しても効果が実感できず、達成感が得られづらいもの。地域で定着させるには、温暖化対策が住民の困りごとに対して有効であり、同時にCO2も減らせるというポイントで伝えるのが重要になってきます。

中部



センター長
根本 昌彦氏

建築用などで利用される木材は、条件によっては千年単位で持続する炭素プールです。こうした炭素プールを社会の中につけていく必要があります。

東部



エコサポーターさん

Q 温室効果ガス排出削減の中・長期目標はありますが、途中年の経過報告はありますか？

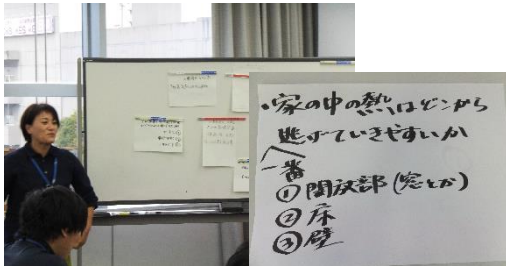
A 環境省は毎年CO2排出量を解析しています。また、パリ協定で5年毎に各国の目標を評価、見直しすることになっていて、その時に詳しい分析が行われます。



前センター長
岡崎 誠氏

ワークショップ

〈西部〉省エネクイズを作ろう!



身近な人に省エネを楽しく伝えるためのツール(クイズ)を皆で作成しました。写真のクイズの答えわかりますか？
【(女ヲ器) 器ヲ器①: 器の器と器】

〈中部〉バックキャストで考える! アイデア出しワークショップ



「2050年の鳥取がこんな社会だったらいいな」というのを設定し、バックキャストでどのような要素が必要か考えました。

〈東部〉COOL CHOICE セミナー



「2050年の天気予報」を視聴して、2050年を見据えてどのような取り組みを今後していくか、参加者それぞれ発表しあいました。

各会場スペシャルゲスト

〈西部〉エネルギーの地産地消による新たな地域基盤の創出

弊社は電力の小売・卸売事業を行っている地域エネルギー会社です。鳥取県は電気料金で年間約1,000億円もの資金が地域外に流出していますが、再エネポテンシャルが高く、小売電気事業者が多い県です。「エネルギーの地産地消」が実現できれば、流出している資金が地域内で順かいし地域経済が活性化され、雇用や賃金の増加と共に、自然環境も守ることができます。



【ローカルエナジー株式会社】
森 真樹 氏

〈中部〉コミュニティで鳥取を元気に!!

コミュニティを構築するにはきっかけが必要。地元住民や移住者、若者が井戸端会議のような、人と人が向き合って話すコミュニティの再生が、低炭素活動の普及の場となり、また災害にも強い持続可能な街づくりに貢献します。カーゴマルシェが震災時の声かけに繋がりました。災害や環境の分野も含めて、身近な人と出会って声をかけることで、まず「自分ごと」にしてから、その地域・地区の「自分たちごと」にしていけたらいいと思っています。



【リアルマック】
福井 恒美 氏

〈東部〉学生が取り組む低炭素活動



【学生ISO委員会】
菊谷 廉 氏

私たちは学内外の環境保全活動や環境大生に向けた環境マネジメントシステム(EMS)のレクチャーを行っています。EMSを運用するためには「PDCA(計画→実行→評価→改善)」が必要不可欠です。会議や年末に行われる大学の内部監査結果を基に、グリーンカーテンやコンポストといった省エネ活動を導入。昨年は150名参加した清掃イベントを企画しました。みんなが愛する学校、そして鳥取をつくるために、PDCAを基に改善しながら環境活動を行っています。

3会場の講座は、それぞれの地域に根差した経済活動、福祉活動、学生活動などを低炭素の視点で振り返ることができました。受講者の方は、それぞれの地球温暖化問題への関わりから持続可能な地域づくりに貢献する足がかりとできたように思います。とっとりエコサポーターズとしてそれぞれの地域で活動しながら情報共有もどんどんしていきましょう!